

J Aの経営は信用、経済、共済にわたる総合事業で、最終利益の結果は、この3つの事業の結果でもある。従っていかにJ Aの経営の改善を実現していくかは、これらにかかっている。

そのためにリスクマネジメントで重要な役割を果たすのは、経営者の明確な意志決定(DO)で、経営改善の大きな要である。経営者の意志決定なしには事業からの撤退、経営改善計画や投資の決定が行えない。

経営者が意志決定を行うためには、その論拠が必要になる。それを作るのが計画、改善提案の作成(Plan)である。そして経営改善計画を実行して(Act

職場のマネジメント ⑦⑧

tion)実際の経営を改善していくことになる。

さらに、計画の進捗よく状況と、その効果を測定することやリスクテイクの状況をリスク量として、経営

J A経営 改善と改革 ①

CAが生じる仕組みが経営改革や改善には必要だ。リスクマネ

課題の共通認識大切

体力と比較して許容範囲に収めるようコントロールするのが検証(Check)

シメントを実践する目的は、目標利益に基づく安定的な収益水準の確保と継続

重要なのは、まず経営全体の収支を統括する企画部

にある。毎期、実現する目標利益を設定、達成のためには、従来の縦割りの事業部門の改善提案ではなく、企画部門と現業部門が共同で検討し、数値と根拠に基づいた改善提案を役員に示し、役員が決定して初めて経営改善の効果が生じてく

また、経営全体の改善に向けた課題認識を現業部門との間で共有し、全体課題からみた現業部門での課題と解決策を共に提案することが重要になる。

要するにJ Aの経営の改善と改革には、事業の縦割りを排除、企画部門によるけん制機能を確立し、現業との課題の共通認識と数値と根拠に基づいた共同提案による改善計画を作成、役員の意志決定に委ねるといった手順が大きなポイントというわけである。



加島 徹氏

かしま・とおる (社)J A総合研 7年から現職。著書『農協の総合研究所主任研究員、博士(農業経済)的リスクマネシメント』(単著)、学)Ph.D、農協監査士。198 『コメ輸入自由化の影響予測』2年J A全中入会、J A全国監査 『日本農業の課題と政策提言』機構・全国監査部次長、J A全中 『食料・貿易・環境の計量分析』経営改善対策室次長を経て200 (共著)。

(次回は24日付)